



しゃれた雰囲気「まんが喫茶」で足を伸ばしてくつろぐ女性＝東京都新宿区

まんが喫茶 人気再燃

漫画本を図書館並みにそろえた「まんが喫茶(まん喫)」が、インターネット使い放題、シャワー設備などサービスをアップして人気を取り戻している。漫画で育った二十代から四十代の男女を中心に、ひんやり癒やしの場になってきているのだ。

自室よりいい

「コミックバスター・エムドラ イフ西中島店」はJR新大阪駅近く。昨年一月、オープンした。漫画本は新旧合わせて約二万冊。木製の壁で間仕切りされた二十七の席にはインターネット用パソコンが置かれ、ふかふかのリクライニングシートが備えられている。男性店員はスーツにネクタイを着用して高級感を演出。間接照明でやや暗めの店内には、シャツが静かに流れている。漫画を読むだけでなく、無料で使えるパソコンでゲームにふける若者も多い。料金は最初の二時間

ネット使い放題、豪華シート
快適な癒やしの場に

が四百二十円で、コーヒーやジュースなどはお代わり自由。一日の会社員の約百三十人が来店するといふ。

「上質な安さの空間を提供したい」と佐藤誠店長。「昼休みに弁当を持ち込んでひと息入れる方や、仕事帰りに立ち寄って二、三時間のんびり過ごされる方が多い」。近所で一人暮らしの男性(40)は「自分の部屋より居心地がいい」。同じ年の女性は「誰にも邪魔されず、自分のペースで漫画を読むと心がのびのびします」と話す。

シャワー室も

学生の町である東京・高田馬場の「ルシエルシェ高田馬場店」は一日二百人以上の利用者のほぼ半数が女性だ。約二万五千冊の漫画本の約三割が少女コミックで、女性ファッション誌も数十種類が本棚に並び、畳一畳ほどの和風個室、二人掛けのソファを備えたカップル向き、明るいカフェ風のコーナーと多彩に用意され、シャワー室まである。終電車を逃して夜明けからの客も多いのだ。

「女性には清潔感が大事」(山本裕美店長)と、いすや机、ヘッドホンなど使用後にアルコール消毒している。



業興団体「日本複合カフェ協会」(東京)によると、まん喫は一九

モダンな家具などが配置されたまんが喫茶「ルシエルシェ高田馬場店」＝東京・高田馬場
.....
八〇年ごろ古くは誕生。バブル経済とともに全国に広まったが、「まんが喫茶イコールおたくの集まる場所」とのイメージが強まり一時衰退した。
九〇年代後半からレストラン並みの食事やネイルアートなど個性的なサービスを導入して再び急成長、昨年の一年間で約五百店も増え、計約三千店に達している。

山陰では「ネットカフェ」に

暗いイメージを払しょく

山陰地方では、まんが喫茶を進化させた「インターネットカフェ(ネットカフェ)」が、若者に浸透し、利用者は着実に増えている。個人ブースから和室の家族部屋まで利用人数に応じてさまざまなタイプの部屋が用意されている店があり、よく利用するとうとう、島根県東出雲町の会社員、長尾友美子さん(40)は「手軽に帰るのびのびの最大の魅力」と話す。

二〇〇二年七月オープンの「自由空間 松江店」(同市浜乃木六丁目)のごとくの利用者数は、前年に比べて二割増し。まんがの他インターネットを使い放題になっている。また、食事のメニューを充実させているほか、ビリヤードや卓球、デジタルダーツなど「アミューズメント」の要素も多く取り入れられている。

松江、鳥取、米子の三市で「自由空間」を展開する山陰信販グループ・エスシーサービスの高田博文(47)は「ネットカフェは怪しい、暗く

といたってこれまでのまんが喫茶のイメージが、ネットカフェの定着とともに払しょくされた」と話す。新たなひろのびの場として浸透し、利用者は今後も増えそうだが、インターネット利用で気を付けたのがセキュリティ面。対策を講じていない店で、個人IDやパスワード、履歴を消去しられたり、ネット上のごみ箱に情報を入れたままだったりと、次の利用者が個人情報を読み出し、悪用するケースもあるという。

安全、安心な店舗は難しいが、日本複合カフェ協会(東京)が認定する優良店かどうかを参考の一つになる。利用した履歴を自動的に削除するソフトを入れるなど、同協会の運営ガイドラインに沿った対策を講じているためだ。

ただ、最も確実なのは、パスワードや暗証番号を必要とするサイトの利用を控えるなど、個人情報の送受信をしないことと言えよう。